

～排水の徹底により生育を確保し、収量・品質の向上を図ろう！～

融雪後の大麦の生育は、草丈は平年よりやや長く、茎数は多く、葉齢の進みは平年並みとなっています。

播種が早いほ場の出穂期は、平年(4/17)よりやや早くなると見込まれます。速やかに排水溝の手直しを行い、収量・品質の向上につなげましょう。

1 排水の徹底 ～ほ場を点検し、排水溝を補修しましょう～

ほ場内に水が停滞すると根の活力が低下し、湿害により生育が抑制され、収量や品質に悪影響を及ぼします。速やかに排水溝の手直しを行い、ほ場の排水に努めましょう。

2 追肥

肥効調節型基肥栽培では肥料成分の溶出が登熟後半まで続くため、葉色がやや薄い場合でも、追肥は行わないでください。

3 作業準備は早めに

本年は積雪が少なかったため、出穂期は平年よりやや早くなると見込まれます。適期に防除が出来るよう、準備をしておきましょう。

4 麦跡ほ場の作付計画 ～カメムシ類が増殖しにくい環境づくり～

麦跡ほ場の有効活用と斑点米カメムシ類の密度抑制のため、麦刈り後は、大豆や園芸作物、緑肥作物等の作付けし、雑草が繁茂しないようにしましょう。

春の農作業安全確認運動

3月から春の農作業安全確認運動が始まります。安全に注意して作業を行いましょう。

